

令和2年度（秋期）「放射線安全管理研修会」

当協議会は、放射性同位元素等を取扱う皆様の認識を高め、安全管理を徹底し、放射線障害の発生を未然に防止するよう適切な対策の検討・推進をしていくことを目的に、関係機関が集まり、協力して自主的に活動する機関として昭和49年に設立され研修会等の諸活動を実施しております。

本研修会はその一環として、（公財）原子力安全技術センターとの共催並びに（公社）日本アイソトープ協会及び医療放射線防護連絡協議会の協賛により開催しました。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染拡大が社会的に懸念される中で、参加者へのコロナ感染防止対策を万全に施す為に主催者側関係者22名が細心の注意を払いながら、東京会場の午前中は、厚生労働省労働衛生課 電離放射線労働者健康対策室高山室長から最新の情報として、「電離放射線障害防止規則改正のポイント」と題しての講演が、引続き「リキッド・モダニティ／Liquid Modernity」ー流動化する社会における専門家の役割ーと題して社会学を専門とする研究者からの講演がありました。

午後は現場の放射線医師の立場から「CT検査における医療被ばく」ー最新技術を活用した線量低減を中心にーと題しての動画講演が、引続き、線量計測をライフワークとする研究者から「放射線計測と放射線安全」ー評価すべき量と測れる量ーと題しての講演がありました。

最後の特別講演は「放射線が拓く植物の謎」と題して、植物の生育過程を放射線で可視化する画期的な講演がありました。今回はコロナ禍での応募者数制限の中で参加者130名の受講者をお迎えする事ができました。

令和2年度（秋期）「放射線安全管理研修会」



東京（文京シビックホール(小)）